

【認定描画療法士研修会 基礎コース (NK③④⑤)】

NK③ 13:20～14:20 心理面接の基礎

松瀬 喜治 (佛教大学)

(公財)日本臨床心理士資格認定協会(2018)によれば、「臨床心理士の専門業務の中核的な行為としての面接は、査定に込められた意味と等質的なCIの“訴え”や“問題”をどう意味づけているか……CI自身の価値観についての限りない尊重を通じての関わりによって、もたらされる援助効果への道程」と記されています。この道程は、認知行動療法、精神分析療法そして描画療法いずれの方法をとるにしても面接の体験知(臨床の知)のもたらず普遍的な関与の姿(イメージ)であると考えられます。今回は、心理士(心理師)とCIとの間で成立する「関係性」に基づく心理空間において、重要な概念である genuineness、participant observation に焦点を当て、心理面接の基礎を受講者の皆様と共に考えたいと思います。

NK④ 14:30～15:30 描画による心理アセスメントの基礎

鈴江 毅 (静岡大学)

まず、「描画の基礎概論」として、描画テスト(心理アセスメント・投影法)と描画療法(心理療法・芸術療法)について概観します。次に「描画による心理アセスメント」で、描画によってアセスメントできること、描画テストの種類、描画法の選択、解釈などを解説し、一部描画実習も行います。さらに「実際の使用例」を解説し、最後に「実施にあたっての注意点」に触れる予定です。

NK⑤ 15:40～16:40 描画による心理面接の基礎

園部 博範 (崇城大学)

臨床現場で使われる描画にはどのような意味があるのか、描画を使った面接をどのように行えばよいのかなど、描画を使った面接には様々な疑問がわいてくる。描画面接には描画が語りかけるものを読む場合と、それを使って対話することによって作り上げられるものがある。また描画法も様々な方法があり、クライアントや面接者の経験などによって使い分けなければならないし、描画を使う場合に注意しておかなければならないこともある。本講義ではこのようなことを踏まえ、描画面接の意義や方法、注意点などについて解説する。